

留学先国名 : フランス

留学先学校名 : Lycee St.Charles

留学期間 : 平成 28 年 8 月 7 日 ~ 平成 29 年 6 月 16 日

私は自分を強くしたいという理由で留学を決意しました。家族から離れ、違った環境に身を置きながら新しい経験を重ねることが、自分を強くすると考えたからです。留学先は、文化、治安、世界で広く使われている言葉を使う国ということを経験的に考え、フランスを選びました。得意の英語圏からフランスへの留学先変更でしたので、留学のためにフランス語を習い始めましたが、16 歳の私は、言葉の通じない異国で過ごす実感がなく机上の人となりました。

私の住んだ町は、人口 6000 人の小さな町 Pledran です。車で 20 分ほどで海に着く場所なので、よくカモメが飛んでいました。ホストファザー、マザー、19 歳の兄、18 歳の姉そして 14 歳の弟がいる、母と二人暮らしの私にとっては賑やかな家族でした。家は四階建てで、一番上の階に 6 畳半ほどの空がきれいに見える部屋があり、それが私の部屋でした。ホストファミリーは友達付き合いの幅が広く、休みの日や平日の午後には頻りに友達らが遊びに来てお話をしていました。家族もその友達もみんな親切に日本人の女の子ということで可愛がってくれ、日本へ帰国する前には、私の友達も含めみんなで集まってお別れ会を開いてくれ寂しかったのを覚えています。

私が通っていた学校は、家からバスで 25 分ほどの St.Brieuc という街の中にある小中高一貫の私立学校で、私は高校二年生の文学クラスを専攻することになりました。20 名弱の小規模なクラス構成で、一日 7 時間ほどの授業がありました。文学部なのでフランス文学やその他ヨーロッパ文学を学ぶ機会が多く、文学を教えてくれる先生も大変熱意がある方で、もしフランス語が完璧に理解できたならすごく面白かったらうなあと今でも思います。英語の授業は普通の英語と英語文学の二種類を受講していました。日本との英語教育の違いは、高校二年生では文法を全く習わず、読解や文章構成、聞き取りを中心に授業をしていました。そのため、テストも文法や単語のテストというよりも文章問題で、とにかく書くという方式でした。また、歴史の授業では第一次世界大戦やベトナム戦争など近代史を中心に先生によるパワーポイントを使っの授業でした。

学校外活動では、演奏経験のあるエレキギターを活かし、音楽の先生が率いるバンドに参加し、週に 1 回の練習をしました。そして 3 回ほどの演奏会を町の会場で行いました。音楽を通しての交流は私にとって新しい経験で、演奏の違いや楽譜の読み方の違いなど面白い発見をしました。また、演奏終了後に声をかけて褒めてくださる方など新たな知り合いもでき、とてもいい経験となりました。

一度、地元新聞の記者の方にインタビューをしていただいた事があり、この 10 か月の留学を一言で表すと何かと聞かれたことがありました。その時に私は C'est étai bien (よかったよ)と答えました。記者の方にはそれだけ！? というように驚かれましたが、私の中ではこの 10 か月間辛いこと 6 割、楽しい嬉しいこと 4 割で、中には一言で表せないほどの苦難や喜びがありました。最初の 4 か月間の記憶が消えてしま

うくらい大変な時間でした。フランス語をほとんど知らない状態だった私にとっては、言いたいことを言えず、相手が言っていることを理解できない状態で、精神的に辛かったことは事実です。ですが、家族やクラスの友達の笑顔と支えによって救われたことが何度もあり、決して折れることはありませんでした。徐々に環境に慣れ、クラスのみんなの事を知り、一緒に外出し、休み時間にたくさん会話ができるようになりました。今思うと英語がほとんど通じない環境に身を置くことによって、フランス語の習得はより早くなったと思います。何も話せない赤ちゃんが徐々に耳で言葉を覚えて話していく感覚に近いかもしれません。帰る時には日常会話や物事を説明することができるようになっていました。

また、海外に住むことによって日本の良さに気付くことが多々ありました。その中でも日本語という言葉と日本文学は胸を張って自慢できるものだと思います。ITの発展により、いつでも好きなところで本を携帯に入れて持ち歩けるものですから、留学中は近代文学から日本書紀まで多岐にわたって読みました。日本語の表現は繊細で奥が深く、この言語を母国語としていることに対して誇りにも思うようになりました。もちろんフランスの良さも知りましたが、より一層自分の国を知りたいとも思いました。フランスの歴史の授業で、日本の話題がたびたび出てきて、人口・政治・歴史的背景・満州事変や特攻隊などについて問われることがありました。その時に答えられなかった質問もあり、持ち帰って調べて後日報告することとしました。その経験が私にとっては日本の文化の深さと矛盾を知る一つのきっかけとなりました。そしてまたそのことが、フランスの友達や家族との距離を縮めさせてくれました。

私の留学においての目標の「強くなりたい」は実現したかと聞かれるとよくわかりません。ですが、臨機応変に、そして打たれ強く、適度に楽観的に。そして自分の意思をしっかりと持ち意見を言うことができるようになりました。一生ものの友達もでき、帰国して1か月しか経っていないのにみんなに会いたと思います。

コミュニケーション能力と打たれ強さは多岐にわたって活用できると思うので、この経験を活かせるよう、アメリカの大学に進学し、大好きな生物と科学を学び、新たな学術を探し求めて追及していきたいと思えます。

壮絶で一瞬で最高で幻のようだった10か月間は一生忘れません。